

一 次の文の「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）第2章 第6節 美術」に関する各小問について、適切な語句を下記の選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1 「第1 目標」において、示されている語句は何か。

1

- ① 創造的に考えを巡らせる ② 生活や社会の中の美術や文化と豊かに関わる
③ 新しい意味や価値をつくりだす ④ 広い視野に立って見方や感じ方を深められる

2 「第1 目標（1）」において、どのように「創造的に表す」としているか。

2

- ① よさや美しさなどを感じ取り ② 自分の見方や感じ方に基づいて
③ 表現方法を創意工夫し ④ 感性や想像力を働かせ

3 「第1 目標（2）」において、示されている「できるようにする」ことの一つは何か。

3

- ① 「技法を生み出し豊かに発想し構想を練ったり」すること
② 「主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり」すること
③ 「新たな見方を生み出し豊かに発想し構想を練ったり」すること
④ 「よさや美しさを生み出し豊かに発想し構想を練ったり」すること

4 「第1 目標（3）」において、示されている「態度」は何か。

4

- ① 心豊かな生活を創造していく態度 ② 自らの表現を追求していく態度
③ 美術を愛好する態度 ④ 想像力を働かせ創意工夫する態度

5 各学年の「A 表現」には、「表現の活動を通して」「育成すること」ことが大きく二つに分けて示されているが、その二つの資質・能力は何か。

5

- ① 「態度に関する資質・能力」と「活用に関する資質・能力」
② 「見方・考え方を働かせる資質・能力」と「美術文化と豊かに関わる資質・能力」
③ 「よさや美しさを感じ取る資質・能力」と「心豊かに表現する資質・能力」
④ 「発想や構想に関する資質・能力」と「技能に関する資質・能力」

6 第一学年の「B 鑑賞」には、大きく二つの鑑賞活動を通して指導することが示されているが、「美術作品などの見方や感じ方を広げる活動」ともう一つは何か。

6

- ① 表現の意図と工夫などについて考えたりするなどの見方や感じ方
② 対象や事象を捉える造形的な見方や感じ方を広げる活動
③ 美術を愛好する心情、豊かな感性についての見方や感じ方を広げる活動
④ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動

7 第一学年の「3 内容の取り扱い」に、「言語活動の充実を図ること」とあるが、「言葉で考えを整理したりすること」や「アイデアスケッチで構想を練ったり」の他にどのような事例が示されているか。

- 7
- ① 美術の専門的な用語を用いるなどして ② 授業の振り返りを記述するなどして
- ③ 作品などについて説明し合うなどして ④ 制作の順序を計画的に考えるなどして

8 第二学年及び第三学年の「A 表現」には、「技能に関する資質・能力」について、身に付けることができるよう指導することとして、「(ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。」と何が示されているか。

- 8
- ① (イ) 材料や用具、表現方法の特性など美術の専門的な手法に触れること。
- ② (イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。
- ③ (イ) 材料や用具、表現方法の特性により、技能が高まったり新たな技能が発揮されたりすること。
- ④ (イ) 材料や用具、表現方法の特性を生かし、技術的な創意工夫を発見していくこと。

二 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 第1部 芸術編 第2章 各科目 第4節 美術 I 3内容 B 鑑賞」からの抜粋である。空欄にあてはまる語句を下記の選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

「美術 I」における「B鑑賞」では、中学校美術科での学習を基礎にして、自然や美術作品、9 などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品に対する自分の考えをもつとともに、自然や社会と美術との関係、日本及び諸外国の美術文化などについての理解を深めることをねらいとしている。

自我を確立し、10 や価値観を形成するこの時期の鑑賞の学習では、生徒が自己を見つめ、自分の価値意識をもって美術をとらえ、主体的・積極的に鑑賞する態度を身に付けることが大切である。

鑑賞もまた創造活動の一環であることから、生徒が対象に対し 11 に接し、感性を豊かに働かせて、作品などに対する自分としての意味や価値をつくりだすことが求められる。そのためには、新たな視点で作品をとらえ直したり、他の作品と比較して 12 に気付いたりするなど、生徒が関心をもって具体的に 13 を感じ取れるように指導を工夫することが必要である。

指導に当たっては、自然や美術作品などに接し、対象や作品の造形的なよさや美しさ、14、世界観などを感じ取るとともに、制作過程や表現の工夫などを追体験するなどして作品への理解を深めたり、自己の表現に生かすよう試みたりして、表現と関連付けることも必要である。

その際、生徒が主体的に作品を鑑賞し、よさや美しさなどを感じ取り味わい、調べたり 15 をし合ったりすることを通して、作品に対する理解を深めていくことも大切である。

- | | | | | |
|----|-----------|--------------|-----------|----------|
| 9 | ① 文化遺産 | ② 身近な環境 | ③ 創造的行為 | ④ 伝統芸能 |
| 10 | ① 自尊感情 | ② 自己の美意識 | ③ 内面世界 | ④ 多様な見方 |
| 11 | ① 能動的 | ② 創造的 | ③ 積極的 | ④ 具体的 |
| 12 | ① 多様な美の存在 | ② 技法の工夫 | ③ 相違や共通性 | ④ 創意や工夫 |
| 13 | ① 美的世界観 | ② 作者の意図 | ③ 制作過程 | ④ よさや美しさ |
| 14 | ① 表現上の工夫 | ② 内包される作者の考え | ③ 歴史的立場づけ | ④ 創作主題 |
| 15 | ① 言語活動 | ② 活発な対話 | ③ 語り合い | ④ 討論や批評 |

三 次の文は、仏像の美について述べたものである。各文について、名称と作品の適切な組み合わせを各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1 飛鳥時代の仏像で図式的な衣文の処理、杏仁形の眼、アルカイックスマイル、太い耳朶、首に三道を刻まない点など厳格な精神性を表現している。

後世の日本の仏像と異なった様式を示し、大陸風が顕著である。

16

2 平安時代の仏像で伏し目の表情、なで肩で適度な張りや厚さの脚部など、落ち着いた気分が全体に漂う。しかし、目や口の彫り込み、衣文線の鋭く自由な彫刻は力強く、耳や足裏などにも生彩ある表現が見られる。

17

3 飛鳥時代の仏像で装飾的な表面処理によって円柱状の細長い体軀の周囲に微妙な動きのある彫刻空間がつけられる。木屎漆（こくそうし）を併用したモデリングには柔らかさがあり、優しい表情やしなやかなポーズが印象的な百濟式の仏像である。

18

4 奈良時代の仏像でもともと古代インドの戦闘神・魔神であり、神々と戦った攻撃的な神であった。しかし興福寺のこの像は少年のような風貌で、わずかに眉をひそめた静かな表情に表され、戦闘神の面影はない。

19



①釈迦三尊像



②薬師如来坐像



③百済観音



④阿修羅像

四 次の文は、明治末から大正にかけての日本美術の動向のなかで、特に絵画分野を中心に活躍した作家と作品について述べたものである。各文について、作者と作品の適切な組み合わせを各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1 雑誌「白樺」などで紹介されたセザンヌ等後期印象派の影響の下創作活動を始め、その後、ルネサンスやバロック美術、中でもデューラーに傾倒し、独特な写実主義を追求した。

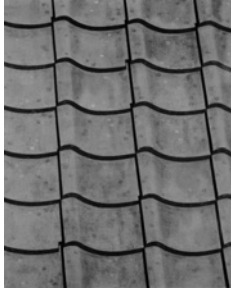
20 ① 村上華岳 - E ② 古賀春江 - C ③ 岸田劉生 - D ④ 村山知義 - B

2 早くから日本画と洋画のジャンルを超えた活発な交流が行なわれていた京都で、新しい日本画の創造を目指して結成された国画創作協会の創設メンバーの一人であり、仏教の世界観を拠り所に、深い精神性・内面性を湛えた表現を生み出した。

21 ① 古賀春江 - C ② 福田平八郎 - A ③ 岸田劉生 - D ④ 村上華岳 - E

3 ヨーロッパのダダイズムや構成主義の運動に直接接触しながら、大正新興美術運動の中心的美術団体である「マヴォ」を主宰し、絵画のみならず、デザイン、舞台芸術、建築の分野でも先端的な活動を行なった。

22 ① 村山知義 - B ② 古賀春江 - C ③ 福田平八郎 - A ④ 岸田劉生 - D



A



B



C



D



E

五 次の文は、世界の文化遺産について述べたものである。各文について、適切な名称とその写真を各選択肢1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 そこは1000年以上の歴史を持つ都市であり、第一次・第二次世界大戦の被害にも、また、その後の資本主義の高度経済成長にも巻き込まれなかったことで、ロマネスク建築から近代建築まで各時代の建築様式が並ぶ「ヨーロッパの建築博物館の街」である。

- | | | |
|----|----------|-----------------|
| 23 | ①マテラのサッシ | ②ザンジバルのストーン・タウン |
| | ③アヤソフィア | ④プラハの市内中心部 |

- | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 24 | ① A | ② F | ③ G | ④ H |
|----|-----|-----|-----|-----|

- 2 それはイタリアのバジリカータ州の町でみられる。いつ頃から作られたかは不明だが、8世紀から13世紀にかけて、東方からイスラム勢力を逃れた修道僧が住み着き、130以上の洞窟住居を構えていたといわれている。

- | | | |
|----|-----------------|---------------|
| 25 | ①ザンジバルのストーン・タウン | ②ナスカの地上絵 |
| | ③マテラのサッシ | ④マルタのジュガンティーヤ |

- | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 26 | ① B | ② C | ③ E | ④ F |
|----|-----|-----|-----|-----|

- 3 そこの2つの神殿は新石器時代(紀元前3600年から2500年ごろ)に建設されたもので、5500年前からあり、世界的にも最古の宗教施設の1つと言える。

- | | | |
|----|---------------|----------|
| 27 | ①マルタのジュガンティーヤ | ②パッタダカル |
| | ③マテラのサッシ | ④ナスカの地上絵 |

- | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 28 | ① C | ② E | ③ G | ④ A |
|----|-----|-----|-----|-----|

- 4 東ローマ帝国時代に正統派キリスト教の大聖堂としての建設を起源とし、帝国第一の格式を誇る教会、コンスタンティノーブル総主教座の所在地であったが、1453年から1931年までの長期間にわたりモスクとして改築を繰り返し使用されて現在の特徴的な姿となり、後に世俗化された。

- | | | |
|----|---------------|-----------------|
| 29 | ①パッタダカル | ②アヤソフィア |
| | ③マルタのジュガンティーヤ | ④ザンジバルのストーン・タウン |

- | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 30 | ① A | ② C | ③ G | ④ D |
|----|-----|-----|-----|-----|



A



B



C



D



E



F



G



H

六 次の文は、日本を代表する写真家とその作品について述べたものである。次の各小問に答えなさい。

1 次の各文について、作品と写真家の適切な組み合わせを各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

- (1) ① 31 は、60年代初頭、「家」「占領」「長崎」などのシリーズで日本の写真界に衝撃を与えた。60年代末からは米軍基地の取材で沖縄に滞在したことが転機となり、同地を撮影した写真集『太陽の鉛筆』を境に作品制作をモノクロームからカラーへと転換させた。
- (2) ② 32 は、基地がある街のバーで働く女性たちの姿を赤裸々に撮って、自身が心から興味を持ったことに対して実際に肌で感じたことのみを表現している。
- (3) ③ 33 の個展「センチメンタルな旅 1971-2017-」（東京都写真美術館）では、写真家の妻「陽子」というテーマで、自らが「陽子によって写真家になった」と語るように、1960年代の出会いから1990年代のその死に至るまで、陽子はもっとも重要な被写体であった。
- (4) ④ 34 にとって写真とは「被写体と写真家の関係の芸術」であり、自身の主観を通し被写体の本質をあらわにする「主観的ドキュメンタリー」という方法を明確化した。



A



B



C



D

31 ① A - 細江 英公 ② B - 石川 真生 ③ C - 東松 照明 ④ D - 荒木 経惟

32 ① A - 荒木 経惟 ② B - 東松 照明 ③ C - 細江 英公 ④ D - 石川 真生

33 ① A - 石川 真生 ② B - 荒木 経惟 ③ C - 東松 照明 ④ D - 細江 英公

34 ① A - 細江 英公 ② B - 石川 真生 ③ C - 荒木 経惟 ④ D - 東松 照明

2 上の作品A～Dについて、撮影年の古い順に並べた組み合わせを選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

35 ① A - B - C - D ② B - D - C - A ③ C - A - B - D ④ D - C - B - A

七 次の文は陶芸に関する用語について述べたものである。各文について、適切な語句を各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1 17世紀後期、琉球王国は各地に点在していた琉球陶器の産地を現在的那覇市に統合した。そこでつくられたやきものの総称は、次のうちどれか。

36 ①益子焼 ②備前焼 ③織部焼 ④壺屋焼

2 可塑性のある土（粘土）で成形し、約700℃～900℃で焼成した無釉のやきものを、一般的に何と呼ぶか。

37 ①土器 ②炱器 ③陶器 ④磁器

3 1000℃以上の高火度で焼成され、日本列島に移住した渡来人によって古墳時代中期に始められたやきものは、次のうちどれか。

38 ①須恵器 ②染付磁器 ③三彩陶器 ④樂茶碗

4 平安時代末期から続く歴史があり、大甕など大型の炱器製品を得意とする知多半島（愛知県南西部）のやきものは、次のうちどれか。

39 ①有田焼 ②京焼 ③常滑焼 ④織部焼

5 琳派の絵師として著名な光琳を兄に持ち、江戸時代の料理文化の発達に即した懷石食器をいち早く手掛けた陶工は、次のうちどれか。

40 ①尾形乾山 ②野々村仁清 ③富本憲吉 ④古田織部

八 次の文章は、沖縄県の工芸品について述べたものである。空欄に当てはまる言葉を各選択肢 ①～④の中から一つ選びなさい。

現在沖縄県には、15 品目の国指定伝統的工芸品があるが、その内、壺屋焼と 41 以外の 13 品目は染織工芸品である。

沖縄の織物は、素材や技法において他に類がないほどの多様さを有し、その産地は沖縄本島から与那国島までほぼ全県下にわたっている。歴史的には中国や南方諸国から多くの技法を取り入れてきたが、素材として沖縄で古くから織られていたのは 42 と芭蕉で、中国や日本から木綿栽培と 43 技術が伝来したのは 44 のことである。そして、17～18 世紀までには現在各地で織られている緋や紋織などのほとんどが織られるようになったと思われる。

琉球王府時代、薩摩の侵攻以後は租税として扱われるようになり、特に久米島の絨織物と宮古・八重山の 45 は「御用布」として厳しい管理下におかれた。こうした過酷な統制は、結果的には織物技術の向上と品質の維持をもたらす一因ともなった。

- | | | | | |
|----|---------|---------|---------|----------|
| 41 | ① 琉球ガラス | ② 三線 | ③ 七宝焼 | ④ 琉球漆器 |
| 42 | ① 苧麻 | ② 大麻 | ③ マニラ麻 | ④ ハイビスカス |
| 43 | ① 媒染 | ② 焙煎 | ③ 養蚕 | ④ 成型 |
| 44 | ① 6 世紀 | ② 10 世紀 | ③ 13 世紀 | ④ 17 世紀 |
| 45 | ① 芭蕉布 | ② 紅型 | ③ 花織 | ④ 上布 |

九 次の各文は、現代美術の作品について述べられたものである。各文について、作品名と作者の適切な組み合わせを各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1 ヌーヴォー・レアリズムの代表的作家で、1948 年からモノクロームの絵画作品の制作に取り組み始めた。特に「青」を宇宙の神秘的なエネルギーに通じる最も非物質的で抽象的な色だとして重用し、自ら開発したという理想的な顔料による「I K B」の特許を取得し、この顔料をキャンバス一面に塗布した絵画の作品群を発表した。また、海綿で作ったレリーフや彫刻に I K B を染み込ませた作品も発表している。

可視なものを不可視にし、また可視に戻すことは彼の芸術のシステムであり、1960 年から始まった儀式的パフォーマンスアートであり絵画でもあるこのシリーズでは、公開制作の際に観客たちに完全な正装を求め、自らも正装で臨んだ。自作曲『モノトーン・シンフォニー』を指揮してオーケストラに演奏させ、I K B の顔料を体に塗ったモデルたちに指示を与え、キャンバスに横たわせたり、横たわるモデルの周りのキャンバスに I K B 顔料を吹き付けたりした。この結果、人間の動的エネルギーの痕跡がキャンバスに残ることになった。

- | | | |
|----|----------------------------|---------------------------|
| 46 | ① 「人体測定」 イヴ・クライン | ② 「無題 (スー)」 ロバート・ラウシェンバーク |
| | ③ 「Blue Tablet」 エルスワース・ケリー | ④ 「Untitled」 ヤニス・クネリス |

2 ブルガリア出身の彫刻家で、芸術概念の拡張からさまざまな流派や傾向を生みだした 20 世紀に「芸術とは何か」という問いをあらためて投げかけた。代表作に、北カリフォルニアの牧場や農村を横断し、太平洋に至る布でできインストールがある。

- | | | |
|----|---------------------------|------------------------------|
| 47 | ① 「空間の鳥」 コンスタンティン・ブランクーシ | ② 「ランニング・フェンス」 クリスト |
| | ③ 「空のカテドラル」 ルイーズ・ネーヴェル、ノン | ④ 「色のある彫刻、薄い青と赤」 パーパラ・ヘップワース |

3 1960年代に始まるカラーフィールド・ペインティングの代表的画家の一人であり、下塗りをしていないキャンバスに薄く溶いた絵具を染み込ませるステイニングの手法を発案した。この作品は1952年に制作されたステイニングによる最初の作例である。その手法は、モーリス・ルイスをはじめとする多くの画家に影響を与え、様々なかたちで現代絵画に継承・発展されている。

- 48 ①「ラヴェンダー・ミスト」ジャクソン・ポロック ②「山々と海」ヘレン・フランケンサラー
③「Nieuport」ケネス・ノーランド ④「Untitled」マーク・ロスコ

4 アルミニウムやステンレスなど産業素材と呼ばれるものを使用し、幾何学的な形態を最小限の構成要素にきりつめ、個性的なことを表す要素を徹底的に排除した彫刻を制作。近代彫刻の新しい流れを決定づけた事で一般的に知られるミニマリズムの代表的作家。

- 49 ①「無題」ドナルド・ジャド ②「パルパライソ・フレッシュ」フランク・ステラ
③「ゴールド・スタンダード」ロバート・ラウシェンバーグ ④「標的」ジャスパー・ジョーンズ

5 現代日本の絵画の動向として、西欧絵画が日本に入る前の伝統的な日本の絵画に活路を見出そうというものがある。この作家も大和絵や浮世絵を思わせる伝統的な手法を採り入れつつ、時空を自由に混在させ、人物や建築物を緻密に描き込む作風で知られる。この作品も「洛中洛外図」の手法や、「吹抜屋台」の手法が用いられ、透視図法的な視線を回避している。それはグーグルマップのように対象物ごとに視点が設けられ画面にちりばめられていて、SF的なモチーフが加わっているが、現代の人々の現実感と奇妙に符合している。

- 50 ①「灰色の山」会田 誠 ②「百貨店圖 日本橋三越」山口 晃
③「連差 破房IV」中村 一美 ④「五百羅漢図」村上 隆

十 次の文章の空欄 A B にあてはまる語句の適切な組み合わせを各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1

国宝に指定されている A は、人物の表情や動きをいきいきと描き、効果的な彩色法や、連続する画面に物語の時間的、空間的推移を巧みに表現する構図法とも相まって、説話絵巻の最高傑作の一つとされている。中でも「尼公の巻」で用いられた B の技法はよく知られ、現代の漫画やアニメーションの表現にも影響を与えたと言われる。

- 51 ① A 源氏物語絵巻 B 吹抜屋台 ② A 伴大納言絵巻 B すやり霞
③ A 信貴山縁起絵巻 B 異時同図法 ④ A 鳥獣人物戯画 B デフォルメ

2

浮世絵師 A は、抒情あふれる作風で諸国の風景を描き、幕末期における名所絵の流行を牽引し、またヨーロッパにおけるジャポニズムの流行や、印象派・後期印象派の動きにも大きな影響を与えた。最晩年に取り組んだ B は、近景と遠景の極端な対比や、俯瞰、鳥瞰、ズームアップなどを駆使した斬新な構図と、多版刷りによる華麗な色彩表現により、風景浮世絵の頂点といわれる名作である。

- 52 ① A 歌川広重 B 「名所江戸百景」 ② A 小林清親 B 「東京名所図」
③ A 葛飾北斎 B 「富嶽三十六景」 ④ A 司馬江漢 B 「三囲景」

3

明治時代の美術思想家・岡倉天心は、西洋絵画に相対するものとして という概念・ジャンルを打ち立て、東京美術学校や日本美術院の設立に関わって、その教育・振興・普及に努めた。同時にすぐれた国際感覚をもち、ボストン美術館での勤務や などの著作を通して、日本及び東洋の文化の優秀性を内外に訴えた。

53

① A 民画 B 「手仕事の日本」
③ A 自由画 B 「自由画教育」

② A 大和絵 B 「禅の本」
④ A 日本画 B 「茶の本」

4

北イタリアの都市 は、第二次大戦後に行政と市民が一体となって実現させた、アートを中核とした画期的な幼児教育の実践で、世界各国の教育に大きなインパクトを与えた。この教育改革を主導した当地の教育思想家・実践家 R. マグラッツィは、「学校と社会」「経験としての芸術」などの著作で知られる 思想家 などの理論をもとに、創造的経験によって子どもの潜在的可能性を最大限に引き出すユニークな教育方法を生み出した。

54

① A ボローニャ B ジャン・ピアジェ
③ A パレマ B ハーバード・リード

② A レッジョ・エミリア B ジョン・デューイ
④ A ピアツェンツァ B ルドルフ・シュタイナー

5

油彩画で使用するメディウムは、テレピンやペトロロールなどの と、リンシードオイルやポピーオイルなど の2種類に大別される。油絵具は顔料を で練ったものであり、画面に塗布された後、酸化と重合という過程を経て、固化・定着する。

55

① A 揮発油 B 乾性油
③ A 乾性油 B 揮発油

② A 樹脂油 B 揮発油
④ A 樹脂油 B 乾性油

十一 次の各文に示された ～ に入るA～Hの用語の適切な組み合わせを各選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

1

この は、かつてはローマのラテラノ広場にあったが、1538年にカンピドリオの広場を が設計するときそこに運ばれた。 であるため、現在は、公害の影響を避けるためカピトリニ美術館の中に展示され、広場にはレプリカが立っている。

中世を通じて大事に取り扱われ保存されてきたのはまさに奇跡的で、それはこの像が を公認したコンスタンティヌス帝と誤認されてきたからだという。人馬一体をなして重々しい静止の状態の中に強く張りつめた動感、後世の騎馬像にとっては常に最古の典型として仰がれた傑作である。

A ガッタメラータ騎馬像 B マルクス・アウレリウス騎馬像 C ミケランジェロ D ブルネレスキ
E 大理石像 F 銅像 Gキリスト教 H イスラム教

56

① A-D-E-H

② B-C-F-G

③ A-C-F-G

④ B-D-E-G

テンペラ絵具とは、油と膠質からなる乳剤による水溶性の媒剤（固着剤）によって顔料を練り合わせた絵具のことである。ぶどう酒に水を割ることや、絵画で顔料を練り合わせて絵具にするための固着剤を混ぜることをテンペラーレといい、その混ぜ物すなわち固着剤をテンペラと称したのが語源である。

固着剤は、 1 をはじめ、膠、アラビアゴム、樹脂、油など多種にわたるが、なかでも 1 が代表的なものであった。

一方、固着剤を必要としないフレスコが14世紀より広く普及するに及んで、それと区別するために、固着剤を用いる画法、そしてその画法による絵画のことをア・テンペラと呼称することが定着する。これにはセッコ画法（下地が乾いてから顔料に固着剤を加えて描く技法）による壁画、板絵、ミニアチュールなど、フレスコ以外の絵画すべてが含まれていた。

16世紀以後、油彩画が絵画の主要な位置を占めると、油以外の、主として 1 を用いた従来の画法のみをテンペラと称することになる。

テンペラ画は乾きが早く、丈夫で耐久性に富む絵具層をつくり、油絵具と違って乾くと色調が数段 2 なる。しかし、色面の平塗やぼかしの技法には不向きで、線描的な性格をもつが、しばしば油絵具と併用されてその欠点が補われる。

15世紀中盤に活躍した 3 の作品には、それまでの保守的なゴシック様式と先進的なルネサンス様式とが混在している。サン・マルコ修道院の集会室や僧坊に清純なフレスコ壁画を残しているが、テンペラ祭壇画の名作も多い。その中でも、現在フィレンツェのウフィツィ美術館が所蔵する『聖母戴冠』は、金箔、ラピスラズリ、パーミリオンなど、15世紀で望みうる最高の素材が大量に使用された非常に贅沢な祭壇画である。金箔が使用されている背景や聖人たちの頭上の後光、衣服の縁飾りは非常に精緻に細工されており、これらはすべてゴシック様式の手法である。ルネサンス様式を感じさせるのは、現実的な立体感をもって三次元的に描かれた人物像と、それらの人物が身にまとっている衣装が垂れ下がる表現やゆったりとした襞の描写である。描かれている人物は大地ではなく雲の上に立っているが、重量感のある表現で描かれている。

一方、盛期イタリア・ルネサンスのテンペラ画の傑作として名高い「ヴィーナスの誕生」や「プリマヴェーラ（春）」は 4 によって描かれた。

4 はレオナルド・ダ・ヴィンチとは約100年時代だが、スフマート技法のような油彩画による深い空間を追求したレオナルドに対して、テンペラ画の軽やかで乾いた装飾性を活かし切ったその作品はまさに好対照と言えるだろう。

A 蜜蝋

B 卵

C 明るく

D 暗く

E フラ・アンジェリコ

F ボッティチelli

 57

① A-D-E-F

② B-C-E-F

③ A-C-F-E

④ B-D-E-F

18世紀から19世紀にかけて活躍したスペインの画家 1 は、長い画歴のほぼ全時期にわたって版画を制作している。その代表作が『ロス・カプリチオス』、『戦争の惨禍』、『闘牛技』、『妄』という四点の連作形式の銅版画集である。

17世紀オランダで活躍した画家 2 も銅版画の大家であったが、その技法の特長は線描であるエッチングやドライポイントである。

1 は、このエッチングに加え、面的な階調を得られる 3 の技法も駆使して、その自由な筆跡による効果的な陰影を、まさに色面的に表現している。

近代絵画の父 4 が注目したのも、この色面的な階調の先駆性と美しさに他ならない。

A ゴヤ

B マネ

C レンブラント

D ベラスケス

E メゾチント

F アクアチント

 58

① A-C-E-B

② D-C-F-B

③ A-C-F-B

④ D-C-E-B

1 は、1912 年にヴァシリー・カンディンスキーとフランツ・マルクが創刊した総合的な芸術年刊誌の名前であり、また、ミュンヘンにおいて1911年12月に集まった主として 2 の画家たちによる、ゆるやかな結束の芸術家サークルである。

年刊誌編集部主催の展覧会も行われ、これに参加し親交を結んだマッケ、パウル・クレー、クビーン、ミュンター等を加えて「 1 の画家たち」と呼ぶ。年刊誌「 1 」への寄稿は画家と音楽家に限られ、収録図版は、当時のヨーロッパの前衛芸術家たちの作品のほか、部族の彫刻や農民の民芸品、 3 などの「未公認の芸術」を含み、これらの作品も芸術として再評価すべきことを主張し、新しく現代的な価値観を提唱した。 1 の活動は1914年の第一次世界大戦の勃発により終わるが、その理念は 4 へと受け継がれて行った。

A ブリュッケ

B 青騎士

C 表現主義

D 構成主義

E 児童画

F 設計図

G デ・スタイル

H バウハウス

59

① B-C-E-H

② A-C-F-G

③ B-D-F-G

④ A-D-E-H

5 1 ～ 4 に示された作品名が、制作された年代の古い順に正しく並べられたものを、下記の選択肢①～④の中から一つ選びなさい。

マルセル・デュシャンの作品

1 『自転車の車輪』

2 『(1) 落下する水、 (2) 照明用ガス、が与えられたとせよ』

3 『階段を下りる裸体No. 2』

4 『彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも』

60

① 2-4-1-3

② 4-1-3-2

③ 1-3-4-2

④ 3-1-4-2